



青南だより

令和5年 夏休み号

港区立青南幼稚園
園長 新山 裕之

<幼虫からチョウへ不思議な命の営み>

青南幼稚園の園庭は、多様な生き物と出会うことができるピオトープです。春、わくわく池にたくさんいたオタマジャクシはアズマヒキガエルになって、あちこちの草むらにひっそりと隠れています。プランターに咲いたビオラやパンジーにはツマグロヒョウモンが、ミカンやレモンにはアゲハチョウが卵を産んで、どの学級でも幼虫を育て、サナギからチョウになるまでを見守り、空に放しました。きれい！不思議!?!という心を揺さぶられる貴重な体験ができました。

<直接体験だからこそ感じられること>

プランターや畑では野菜も育てており、親子で種をまいたヒマワリや苗を植えたサツマイモの様子を朝や帰りに楽しみに見ている姿があります。普段はあまり野菜を食べない子も、自分たちで水やりや世話をし収穫した枝豆やトマトなどはおいしい！と食べています。昆虫も野菜も小さな命です。その命の営みを直接見たり触ったり、嗅いだり味わったりして関わっています。図鑑や映像ではなく、青南幼稚園ならではの直接体験ができていることに大きな意味があります。

<夏休みを元気にお過ごしください>

一方で、害虫の発生を未然に防ぐために、草刈りや樹木の剪定などの手入れも日々行っています。それができて初めて安心して遊ぶことができ、すてきな体験もできます。それでも、人の思い通りにはならないのも自然です。暑過ぎて園庭に出て遊ぶことができない日も続いているほどです。

夏休み中は早起きをして涼しい時間帯に外で過ごしたり、海やプールにも出掛けたりするのもいいですね。夏休みを元気に過ごして、9月に笑顔でお会いしましょう。



年少児は育ててきたエダマメを収穫しました



年中児は赤くなったミニトマトを収穫しました



地域の音楽家によるすてきな七夕コンサート



園庭の自然環境の整備も日々の大事な仕事



園庭のエノキに棲むきれいなヤマトタマムシ

青南の 二十四節気

・・・葉月 (はづき)・・・

立秋 (8日) …セミが鳴き、暑さはまだまだ続きます …

処暑 (23日) …暑さも少し収まり、もうすぐ2学期 …

七夕コンサートでは、地域の音楽家、勝山さんと水島さんによるピアノとトロンボーンの演奏を真剣な様子で聴いていました。本物に触れる貴重な機会でした。

園庭のエノキの下では今年もヤマトタマムシを発見しました。園庭のあちこちにセミの幼虫 (のこのこ) が出てきた穴が開いており、セミも鳴き始めています。夕方の公園などで、地上に出てくる幼虫を見付けることができるかもしれません。